

「第 13 回北東アジア OSS 推進フォーラム」を開催

日本 OSS 推進フォーラム(理事長:富士通株式会社 吉田 正敏)は、「第 13 回北東アジア OSS 推進フォーラム」を、2014 年 11 月 20 日(木) に Hilton 武漢 オプティクス バレー(中国武漢市)において開催しました。日本・中国・韓国の産業界、政府関係者、研究機関、大学等より約 130 名の参加がありました。次回フォーラムは、2015 年に日本で開催することが合意されました。

北東アジア OSS 推進フォーラムは、2004 年以来、日本 OSS 推進フォーラム、中国 OSS 推進連盟及び韓国 OSS 推進フォーラムが協調し、各国における OSS の普及・発展に向けた活動を行っています。各国の産官学関係者からの講演、ワーキンググループ(WG)¹の活動報告、各国で選ばれた OSS 貢献者の共同表彰等が行われました。



今回の会合では、日中韓のフォーラム参加者が、各 WG から報告された成果と今後の計画に関する議論に基づき、次の合意を得ました。

- 今後の WG 発足のメカニズムをより柔軟かつ高効率にし、2ヶ国の参加でも発足可能とし、残りの国と情報と成果を共有できる様にした。
- オープンスタンダードの制定とコンプライアンス推進を通して、OSS および関連アプリケーションの環境を徐々に整備する。
- 本フォーラムの活動内容をどの様にしていくか、継続して検討して行く。
- 第 14 回北東アジア OSS 推進フォーラムは、2015 年に日本で開催する。

¹ 北東アジア OSS 推進フォーラムには、①「WG1:技術開発・評価」②「WG2:人材育成」、③「WG3:標準化・認証研究」、④「WG4:適用推進」の4つのワーキンググループ(WG)が設置され、各WGにおいて専門的な議論が行われています。

4つのWGから報告された主な活動成果と今後の計画は、以下のとおりです。

I. WG1:技術開発・評価

- 2014年には、クラウドコンピューティング分野での協力を深め、OpenStackとCSB(Cloud Service Broker)ポータルベースのテスト・実践用プラットフォーム構築を計画した。
- グローバルコミュニティと連携し、OpenStack Foundationへの参加に積極的に対応する。
- クラウド、モバイルインターネット、IoT、ビッグデータ、スマートシティの分野での研究協力の可能性を探求する。

II. WG2:人材育成

- 2014年は北東アジアOSSトレーニングキャンプの制度化を促進した。
- OSSの人材開発を推進するために、第9回日中韓OSS貢献者賞と第7回日中韓OSS特別貢献者賞を授与した。
- 北東アジアOSSデモカリキュラムとOSSのトレーニングキャンプの制度を利用することにより、WG2は、教材の共有、OSS関連能力の認証、および、日中韓における相互認証の共有化を推進する。

III. WG3:標準化・認証研究

- OSSの安全な利用指針およびガイドラインを整備するために、「OSSガバナンスフレームワーク」という名前の新しいプロジェクトを開始した。
- 適用性評価モデルと実装方法を評価した「オープンソースソフトウェアの成熟度と適用性評価モデル(OSMAAM)」プロジェクトが完了した。
- OSS成熟度評価の普及と応用を継続し、OSSガバナンスのフレームワークとSPDX(Software Package Data Exchange)に注力していく。

IV. WG4:適用推進

- 日中韓オープンソースソフトウェア企業ディレクトリのウェブサイトを構築した。
- スマートシティ、物流、スマート観光、オンライン教育システムの調査と研究を行う。
- 3ヶ国の協力成果の普及と適用を促進するために、かつ実用的プロジェクト実施のために、すべてのリソースを調整し、実証プロジェクトに注力していく。

大会議長をつとめた中国OSS推進フォーラムの邱議長は、大会の最後に議長声明として、「全ての参加者が世界に広がるOSSコミュニティと価値を共有し、日中韓の政府・企業・教育機関や個人を含む各グループの偉大なる努力に大いに感謝します。フォーラムは、日中韓と他のアジア地域におけるIT産業の成長をめざし、OSS市場を拡大してきました。ここに、OSSコミュニティのメンバーとして、オープンな世界を拡大し、豊かにすることを宣言します。」と表明し、本大会を締めくくりました。

本会合直前の11月18日(火)に、OSS特別講演会(トレーニング・キャンプ)を開催しました。第13回北東アジアOSS推進フォーラムへの日本、中国、韓国からの参加者のほか、中国武漢市の学生・若手技術者が講演会に参加し、世界最先端の技術を学ぶと共に国際的交流が深まりました。

■本件に関するお問い合わせ先
日本OSS推進フォーラム
E-mail:info@ossforum.jp